

組合員に聞いてみました! みんなで考える戦争と平和

Q1 どんなことを聞きましたか? また、どんな印象を受けましたか?

祖父は特攻隊の練習生でしたが、出撃間際で終戦となり生きて帰ることができたとのこと。そのおかげで今の私たちへと続いています。



(美濃市 ハッピーツインズさん)

父は外国人に対して残忍な行動をとった自分や日本人のことをすごく悔やんでいるようで、戦争の愚かさを教えてくれました。義父は、「戦争があったおかげで今の日本の繁栄がある。仕方ないことだった」と感じているようでした。同じ日本人でも戦争に対して違った見方をしているのを強く感じています。

(恵那市 ナナちゃんさん)

学生時代に戦争のことを祖父母に聞いた時に、あまり口を開かず「戦争は絶対にかんことだ! 戦争は一つもいいことはない!」としか話してくれませんでした。孫の私に話せないくらい戦争体験は壮絶だったんだと思いました。

(岐阜市 マカロンさん)

母の兄がガタルカナル島で戦死しました。母は「あの若さで死に行っただけや。戦争は人と人の殺し合い」と悲しそうにいつも話してくれました。戦争は絶対してはいけないという気持ちです。

(土岐市 きよんきよんさん)



「戦時中は空襲があり、食べ物もほとんどなかった。子ども達も竹槍で戦う準備をしたり、教科書も戦争に関わる内容に変わっていった」という話を聞き、幼い子どもまで戦争に参加する世の中で、国民が総出で戦争というものに関わっていたんだなあと思いました。

(瑞穂市 こしあさん)

父は兵役に行くことはなかったのですが、B29が飛行してきた時とまさに目の前の小さな盛土に頭をかがめて去るのを待ったそうです。もし、父が頭をあげていたら頭に弾丸を受けて亡くなっていたと聞き、とても怖い話であり、「戦争はやるべきではない。だれも喜び人はいない」と強く思いました。

(岐阜市 ベルちゃんさん)

Q2 戦争や戦時中の生活を学習できる施設や、平和を考えるきっかけになるおすすめの本があれば教えてください。

学習施設(場所)

広島平和記念公園

小学生の頃は、修学旅行で特に深く考えず見て回りましたが、大人になってから訪れたときは、ゆっくり・じっくり見て、いろいろ考えることができました。

(関市 とーしんさん)



知覧特攻平和会館(鹿児島県)

10代から20代前半の特攻兵の方々が出撃する直前に書いた手紙などが展示してあります。とても達筆でしっかりした人柄が彷彿とさせる手紙ばかりでした。どこからともなくすすり泣く声が聞こえてきました。

(高山市 ほそみさん)



おすすめの本

『新版 ガラスのうさぎ』

高木敏子 作/武部本一郎 画/金の星社 子どものころに何回も読み返しました。子どもながらに戦争の怖さが身に沁みました。

(岐阜市 ふみさん)



『この世界の片隅に』

著:この世の年代/双葉社 日々の暮らしの中にじわじわと入りこんでしまう戦争という状況。気づかないうちに生活が変わっていき、私たちはその状況に嫌でも適応していくのだと思いました。

(高山市 ペンペンさん)



©この世の年代/コアミックス

あなたも参加してみませんか?

自宅から参加できます!

ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ

広島県生協連・長崎県生協連と日本生協連は、被爆体験の継承や核兵器のない世界への思いを共有する場として、毎年「ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ」を開催しています。8月4日・5日はヒロシマから、8月7日・8日はナガサキから、被爆者が体験を語るLIVE配信や、オンライン碑めぐりの動画を視聴することができます。



こちらからもアクセスできます

<https://peace.jccu.coop/> ※事前申し込み不要

オンラインピースカフェ

平和についてみんなでおしゃべりしませんか?

岐朋会(岐阜県原爆被爆者の会)の木戸季市さんより、被爆体験などについてお話を聞きます。

9月24日(金)10:00~11:30

※オンライン(Zoom)で開催。

詳しくは9月3週(37号)の「週刊コープぎふ」をご覧ください。

お問い合わせ コープぎふくらしの活動部 TEL.058-370-6873 [受付] 9:00~17:00(土・日休み)

Save Peace!



Peace Message

平和の取り組みは、皆様の平和カンパに支えられています。コープぎふは「台所から平和を!」をスローガンにかけ、平和の大切さを考える取り組みを行っています。2021年度も平和を願う活動を継続して進めます。一人一人の気持ちが平和な未来への大きな力になります。

募金名	注文番号	金額
平和カンパ	3954	50円
	3983	100円
	3955	500円
	3984	1000円

OCR注文用紙・e-フレンズ・電話注文にて通年で受け付けています。

語り継ぐ平和へのメッセージ



語り継がなければ
ならないことがある。
聞くことで
未来は変えられる。



戦争体験者の高齢化と共に戦争の記憶自体が風化しつつあります。コープぎふでは、当時の体験を聞き書きする事で、戦争時の体験を次世代に受け継ぎながら、日常のくらしを通じて平和の大切さを考えていきます。

「戦争体験聞き書き」について



戦争を体験された方から当時の様子(戦争および戦時下のくらし)を伺い、そのお話を文字にすることで、平和の大切さを後世に残し、戦争を語り継ぐ取り組みです。「戦争体験聞き書き集」は岐阜県立図書館をはじめ、主な市町村立図書館に置いています。

【募集内容】 戦争および戦時下のくらし、終戦直後の動乱期のくらしを体験された方よりその当時の様子をうかがい「聞き書き」をします。

※「聞き書き」…聞き取った内容を文章にすること。
※本人による戦争体験談も募集しています。

ご応募について、詳しくは8月2週の「週刊コープぎふ」をご覧ください。

昨年の聞き書きに投稿いただいた福井さんにお話を伺いました!



福井みのりさん (岐阜市・88歳)

平和の大切さを伝えるために

7月9日、岐阜空襲のあった日は私たち家族の運命を変えた忘れられない日です。当時私は小学6年生、夜に空襲警報が発令され、家族で無我夢中で逃げました。橋を渡る時に岐阜駅や私の家の方で火の手が上がったのを見て、「梅しい!」と叫んだのを覚えています。翌朝戻ると一面焼け野原、私の家も焼けてしまっていました。

その日からは親戚の家を頼り、終戦を迎えました。終戦後の生活では、空襲警報が鳴らなくなったことが何よりの安心でした。家族、兄弟と支え合い、今を迎えることができている。

今まで戦争体験を誰かに話したことはありませんでした。つらい経験を思い出そうともしませんでしたし、興味を持って聞いてくれる人もありませんでしたが、親や兄弟が皆他界し、年齢を重ねるにつれて昔のことをよく思い出すようになりました。新聞で「聞き書き」の募集が目にとまり、良い機会だと思い投稿しました。

今思うと、本当に愚かな戦争だったのだと思います。現代を生きる方には、自分の幸せだけではなく、人の気持ち、みんなの気持ちを考えて過ごしてほしいです。平和でなければいけないと強く思っています。